

2026 年 10 月 20 日

## 国際鉛亜鉛研究会（ILZSG）2026 年 10 月プレスリリース

日本鉱業協会企画調査部

国際鉛亜鉛研究グループは、2026 年 10 月 15 日～16 日（現地時間）にリスボンで秋季総会を開催し、鉛・亜鉛の世界的な需給の現状と 2027 年の見通しについて検討し、10 月 19 日付にて以下内容にてプレスリリースが発表された。

### 1. 2026 年および 2027 年の鉛の見通し

#### 1) 鉛需要

- ・ 世界の精製鉛需要は、2026 年に 1,379 万トン（前年比 0.9%増）、2027 年に 1,392 万トン（同 1.0%増）となる見通しである。
- ・ 欧州需要は 2026 年に 1.3%増加すると予測される。ドイツ、ギリシャ、ポーランド、スロベニアおよびスペインにおける見掛け消費増加が、フランスおよび英国の減少を上回ることが主因である。
- ・ ブラジル、インド、インドネシア、メキシコおよび米国でも需要増加が見込まれる一方、韓国およびトルコでは減少すると予測される。
- ・ 中国では交換用バッテリー市場の需要は堅調であるものの、鉛蓄電池輸出および自動車生産の減少により、2026 年の鉛需要の伸びは 0.2%にとどまる見込みである。
- ・ 2027 年には、欧州、インドおよび米国で需要増加が続く一方、中国および韓国では減少すると予測される。

#### 2) 鉛生産

- ・ 世界の鉛鉱山生産は 2026 年に 444 万トン（2.8%減）となる見通しであり、2027 年には 458 万トン（2.9%増）へ回復すると予測される。中国でも同様の傾向が見込まれ、2026 年に 1%減少した後、2027 年には 4.1%回復すると見込まれる。
- ・ 欧州の鉛鉱山生産は、ロシアおよびスウェーデンの減産により減少する見通しである。スウェーデンのガルペンベルグ鉱山では地震活動の増加が生産を制約すると見込まれる。一方、ポルトガルではアルジュストレル鉱山における鉛・亜鉛回収の再開により増産が見込まれ、減少分の一部を相殺する。
- ・ ボリビア、キューバ、ペルー、南アフリカおよび米国でも減少が予測されるが、オーストラリアでは増産が見込まれる。
- ・ 2027 年の世界供給の増加見通しは、主としてオーストラリアでの一段の増産によって押し上げられる。オーストラリアでは新たな設備能力が稼働開始す

る見込みで、欧州、ブラジル、インド、ペルーでも増加が見込まれる。ただし、キューバと米国では生産の減少が続く見通し。

- ・ 世界の精製鉛供給は 2026 年に 1,388 万トン (1.0%増)、2027 年に 1,408 万トン (1.5%増) となる見込みである。
- ・ 2026 年には、2025 年に稼働開始した新たな二次製錬能力を背景に、インド、韓国、トルコおよびブラジルで精製鉛生産が増加する見込みである。一方、中国では減産が見込まれる。
- ・ 2027 年には、インドおよび韓国で増産が続き、中国も回復する一方、欧州では小幅な減少が予測される。

### 3) 鉛需給バランス

- ・ ILZSG は、加盟国からの最新情報を踏まえ、2026 年の精製鉛市場は 9 万トンの供給超過、2027 年は 16 万 3 千トンの供給超過になると予測している。

## 2. 2026 年および 2027 年の亜鉛の見通し

### 1) 亜鉛需要

- ・ 世界の精製亜鉛需要は、2026 年に 1,402 万トン (1.4%増)、2027 年に 1,419 万トン (1.2%増) となる見込みである。
- ・ 中国では、2026 年に 1.8%増加した後、2027 年の需要増加率は 0.3%にとどまる見通しである。不動産投資は依然低迷し、インフラ投資および自動車生産も 2026 年前半に減少したが、製造品輸出の増加が産業活動を支えている。
- ・ 欧州需要は 3 年間の減少後、2025 年に 4.6%増加した。2026 年は 0.3%の緩やかな増加が見込まれ、ドイツ、イタリアおよびポーランドの増加がフランスおよび英国の減少を一部相殺すると見られる。直近のデータからは、EU の製造業生産がここ数か月でわずかに持ち直していることがうかがえる。ただし、インフレ圧力の再燃と金利上昇により、景気拡大への期待は抑えられている。
- ・ その他地域では、インド、韓国および米国で増加する一方、イラン、ペルー、台湾、中国、タイおよびアラブ首長国連邦では減少が予測される。
- ・ 2027 年には欧州、インドおよび米国で需要増加が見込まれる。

### 2) 亜鉛生産

- ・ 世界の亜鉛鉱山生産は、2025 年に 6.3%増加した後、2026 年には 1,240 万トン (2.6%減) となる見込みであるが、2027 年には 1,278 万トン (3.0%増) へ回復すると予測される。
- ・ 2026 年には、ペルー、スウェーデン、米国で生産が減少すると見込まれる。主因は、それぞれアンタミナ、ガルペンベルグ、レッドドッグの操業で大幅な減産が見込まれるためである。さらに、2025 年 12 月のレディ・ロレッタ鉱山の閉山を主な要因として、オーストラリアのほか、キューバとカザフスタンでも追加の減産が予想される。

- ・ これらの減少は、キプシ鉱山およびアルジュストレル鉱山の増産を背景とするコンゴ民主共和国およびポルトガルの増産によって一部相殺される見込みである。
- ・ 2027 年には、中国の大規模新規能力の稼働が増産要因となる。ナミビアおよび南アフリカでもロシュ・ピナおよびガムズバーグ鉱山の拡張効果により増産が見込まれる。
- ・ 世界の精製亜鉛生産は 2026 年に 1,393 万トン（0.9%増）、2027 年に 1,421 万トン（2.0%増）となる見込みである。
- ・ 2026 年の世界的な伸びは、最近まとまった新たな精錬能力が稼働した中国での 3.7%増がけん引するとみられる。中国以外では、精鉱の供給が限られることやエネルギーコストの上昇を背景に、生産は 2%減少すると予測される。
- ・ 欧州の生産量は今年、大幅に減少する見通しで、カナダ、イラン、カザフスタン、メキシコ、ペルーでも一段の落ち込みが予想される。ただし、これらの減少分は、ブラジル、インド、韓国での増産によって一部相殺される見込み。
- ・ 2027 年は、精鉱の供給がより潤沢になることで世界の生産が押し上げられ、カナダ、日本、カザフスタン、ペルーで増加が見込まれる。ノルウェーでも、ボリデンがオッタ製錬所の拡張を完了したことから増産が予想され、さらにロシア連邦では、チェリャビンスク州で新設のヴェルフニ・ウファレイ製錬所の稼働開始が控えていることが、生産増の要因になる見通し。

### 3) 亜鉛需給バランス

- ・ 世界の精製亜鉛市場は 2026 年に 8 万 8 千トンの供給不足となるが、2027 年には 2 万 5 千トンの供給超過になると予測される。

### 3. その他

本プレスリリースで取り上げた内容の詳細は、ILZSG のウェブサイト ([www.ilzsg.org](http://www.ilzsg.org)) をご覧いただくか、事務局までお問い合わせください。

以 上